

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2016. 10月号（中島副委員長 記）

○実践歯学ライブラリー／“歯内療法の温故知新 ～変わりゆくもの、変わらないもの～”（倉富 寛）

＊CBCT とマイクロスコープ、NiTi ファイルシステムの進化により、歯内療法が大きく変貌を遂げている。歯内療法で変わってきたものと変わらないものを整理し、歯内療法の考え方と臨床の実際について解説している。

＊変わりゆくもの

・デンタル（アナログ）

・ステンレスファイル
・FC
・NaOCl+過酸化水素水の交互洗浄

・側方加圧充填



・デンタル（デジタル）
・CBCT
・マイクロスコープ
・NiTi ファイル
・水酸化カルシウム
・NaOCl+EDTA の交互洗浄
・超音波洗浄
・垂直加圧充填

＊変わらないもの

・適確な診断 ・ぶれないコンセプト ・精度の高い手技 ・責任&探求
新しい歯内療法についてよくまとめてあります。

○失敗例から学ぶ インプラントのクライテリア⑩《座談会》若手歯科医師へのメッセージⅡ 上顎前歯部へのインプラント補綴の勘所③

＊上顎前歯部へのインプラント補綴はアバットメントの選択、修復材料の選択、歯間乳頭の再建など難しい面が多い。アバットメントの陽極酸化処理でチタンにピンクゴールドを着色したり、骨造成で歯間乳頭を再建したりと多くの臨床のヒントが記載されています。前歯部インプラント補綴をされる先生は是非、ご一読ください。

歯界展望／2016. 10月号（小野委員長 記）

○インプラント材料：臨床の疑問に答える 骨増生用移植材（骨補填材） （吉成正雄 東京歯科大学 口腔科学研究センター）

＊9月号、10月号の2回に亘り骨補填材について特集されている。インプラント治療に限らず、歯周外科治療や再生療法でも、骨補填材が必要と思われる症例は少なくない。9月号が基本的知識（細胞、生理活性物質、スキャフィールドなど）で、まずどんな材料があるか、その組成や形状などを詳しく、メーカー別に一覧表にしてある。また骨補填材以外の組織再生用の材料も、組成ごとに分類して製品名やメーカーまで記載されている。10月号では、リン酸カルシウムの種類について詳しく解説している。β-TCP と HA の差異についてなど、最後は市販の骨補填材の臨床的な使い方の注意点などもまとめられているので、興味のある先生は9月10月の両方を揃えられると、心強いと思います。

ザ・クインテッセンス／2016. 10月号（岡崎副委員長 記）

○歯科医療の20年先を見据えたイノベーションを考える ―歯周病学の観点から―

第2回 理解しておきたい病因論①（築山鉄平 宮本貴成）

＊現在の歯周病原細菌に対する考え方は、Dysbiosis（ディスバイオシス）仮説が提唱されている。つまり、口腔内には病原性をもつ細菌は常に存在し、善玉菌や共生細菌とバランスをとり恒常性を保ち健康な状態を維持しているが、特定の病原性をもつ細菌が増加すると他の細菌バランスにも変化が起り、結果的に免疫反応を刺激し、炎症あるいは歯周炎へと発展する。リスクファクター（喫煙、糖尿病、肥満など）は宿主に働きかけることにより、このバランスをくずし、細菌バランスの変化、免疫反応の変化をより起こりやすくするが、歯周治療により炎症をコントロールしてその恒常性を回復させることができる。余談だが、先日のNHKの“ためしてガッテン”では緑茶が口腔内の悪玉菌を抑制し、善玉菌は保護すると紹介している。

歯科評論／2016. 10月号（居樹副委員長 記）

○特集／おさえておきたい義歯のリラインのコツ（原 哲也 山崎史晃 他）

＊顎堤吸収が起ると義歯にリラインが必要になってきます。特に本年軟質材料を用いての有床義歯内面適合法が保険適応になり、注目されています。しかしひとことにリラインといっても材質によって違いがあり、手技のよっても間接法か直接法かで大きく違います。本特集ではリラインについて材質や手技などその特徴と方法など詳しく説明しています。是非参考にし明日からの臨床に役立ててください。

○すぐに臨床応用できる補綴装置撤去のコツⅡ. 特殊な器具を用いた補綴装置撤去

第4回 特殊な器具の種類と使い方①（大野晃教 鈴木優美 他）

＊臨床に即役立つ本連載、第4回は特殊な器具の種類と使い方です。特殊な器具とは「イージークラウンリムーバー」と「ワムキークラウンリムーバー」です。クラウンの切削量が少なくてすみ、手技も簡便で楽にクラウン除去できるようです。その使い方を写真付きで詳しく解説しています。臨床が楽になるぜひ使ってみてほしい器具です。